

これは主に研修期間の長さによると考えられる。

- 精神科は医療面接で32%と内科に次ぐ評価を得た。一方で、チーム医療で9%、問題対処能力7%、安全管理7%と各科に比べて低い評価を得た。これは、研修医に精神科領域での取り組みが理解されていないことを示す。

2) 精神科研修アンケート

327 の研修指定病院あてに 6053 通の A4 版 4 枚のアンケートを発送し、802 通が回収された。これらを対象とした。

- 回答者集団は前述の研修医の 10.9%にあたり、回答者の属性分布は先行する基本研修アンケート同様平成 16 年度初期研修医を代表するものと考えられる。
- 精神科研修はほとんどが 2 年目に 1 ヶ月 (72.4%) の研修を行っており、研修医の半数が精神科病院、2/3 が大学病院を含む総合病院での研修を経験していた。
- 精神科研修の達成目標のすべてで過半数の達成率を示し、多くの領域で高い達成率を示した。特に精神障害に対する偏見の除去や理解で高い達成率を示した。一方で自殺予防や向精神薬の使用、認知症の診断などは過半数にとどまった。
- 精神科指導体制、指導医に対する評価は高かった。
- 精神科研修の有用度は高く、84%が有用と評価した。特に偏見の除去と専門科で用いることのできる精神医学的知識を得たことが有用と評価の理由となっていた。一方で研修期間の短さが有用度を制限していた。
- 精神科研修の満足度は 68.4/100 点満点であった。指導医に対する高い評価が満足度と関連していた。